

令和4年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績報告について

令和4年度（令和3年7月1日～令和4年6月30日）実績報告より

	先進医療A	先進医療B	計
① 先進医療技術数（令和4年6月30日現在）	26種類	57種類	83種類
② 実施医療機関数（令和4年6月30日現在）	322施設※1	179施設※1	428施設※2
③ 全患者数	25,011人	1,545人	26,556人
④ 総金額（⑤+⑥）	約138.4億円	約13億円	約151.4億円
⑤ 保険外併用療養費の総額（保険診療分）	約77.3億円	約7.3億円	約84.6億円
⑥ 先進医療費用の総額	約61億円	約5.7億円	約66.7億円
⑦ 全医療費のうち先進医療分の割合（⑥／④）	44.1%	43.7%	44.1%

※1 1施設で複数の先進医療技術を実施している場合でも、1施設として計上している。

※2 1施設で第2項先進医療と第3項先進医療の両方を実施している場合でも、1施設として計上している。

令和4年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績報告について

令和4年度（令和3年7月1日～令和4年6月30日）実績報告等より

	先進医療A	先進医療B	計
① 先進医療技術数（令和3年6月30日現在）	24種類	59種類	83種類
② 新規承認技術数	8種類	10種類	18種類
③ 保険収載技術数	3種類	0種類	3種類
④ 実施取り下げ技術数	-	12種類	12種類
⑤ 削除技術数	3種類	-	3種類
⑥ 先進医療技術数（令和4年6月30日現在）	26種類	57種類	83種類
⑦ 総括報告書受理数	-	15種類	15種類

< 過去5年間の実績 >

	実績報告 対象期間	技術数	実施医療 機関数	全患者数	総金額	保険外併用療養 費の総額 (保険診療分)	先進医療及び 旧高度先進医 療の総額	全医療費のうち先進 医療及び旧高度先 進医療分の割合
平成30年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績※1	H29.7.1～H30.6.30 (12ヵ月)	92	936施設	28,539人	約285億円	約45億円	約240億円	84.3%
令和元年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績	H30.7.1～R1.6.30 (12ヵ月)	88	1,184施設	39,178人	約352億円	約54億円	約298億円	84.6%
令和2年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績※2	R1.7.1～R2.6.30 (12ヵ月)	83	252施設	5,459人	約99億円	約37億円	約62億円	62.6%
令和3年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績	R2.7.1～R3.6.30 (12ヵ月)	83	267施設	5,843人	約103億円	約41億円	約62億円	60.2%
令和4年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績	R3.7.1～R4.6.30 (12ヵ月)	83	428施設	26,556人	約151億円	約85億円	約67億円	44.1%

※1 平成30年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

※2 令和2年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

【先進医療B】
令和4年6月30日時点における先進医療に係る費用
令和4年度実績報告(令和3年7月1日～令和4年6月30日)

整理番号	告示番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	実施医療機関数(機関数)
1	2	経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 早期乳がん(長径が一・五センチメートル以下のものに限る。)	平25.8.1	-	-	-	0	-
2	3	インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	平25.8.1	11,330,860	9,326,110	-	7	5
3	4	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	平26.1.1	-	-	-	0	-
4	5	全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロピドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法 全身性エリテマトーデス(初回の副腎皮質ホルモン治療を行っている者)に係るものに限る。)	平26.8.1	5,557,494	136,909	33.2	5	4
5	7	術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法 切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	平26.12.1	-	-	-	0	-
6	8	LDLアフェレシス療法 閉塞性動脈硬化症(薬物療法に抵抗性を有するものであり、かつ、血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類ⅡB度以上のものに限る。)	平27.11.1	8,387,452	2,602,980	68.0	2	1
7	9	骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法 腫瘍、顎骨骨髓炎、外傷等の疾患による広範囲の顎骨又は歯槽骨欠損(上顎にあっては連続した三分の一額程度以上の顎骨欠損又は上顎洞若しくは鼻腔への交通が認められる顎骨欠損に限り、下顎にあっては連続した三分の一額程度以上の歯槽骨欠損又は下顎区域切除以上の顎骨欠損に限り、歯槽骨欠損にあっては歯周疾患及び加齢による骨吸収を除く。)	平28.1.1	-	-	-	0	-
8	10	テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	平28.1.1	18,314,230	14,333,070	0.4	18	13
9	11	ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	平28.1.1	1,220,400	583,040	3.0	4	2
10	12	自家嗅粘膜移植による脊髄再生治療 胸髄損傷(損傷後十二月以上経過してもなお下肢が完全な運動麻痺(米国脊髄損傷協会によるAISがAである患者)に係るものに限る。)	平28.4.1	-	-	-	0	-
11	13	重粒子線治療 肝細胞がん(初発のものであって、肝切除術、肝移植術、エタノールの局所注入、マイクロ波凝固法又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が七点未満のものに限る。)	平28.6.1	25,094,780	24,500,000	-	7	1
12	14	重粒子線治療 非小細胞肺癌(ステージがⅠ期であって、肺の末梢に位置するものであり、かつ肺切除術が困難なものに限る。)	平28.7.1	9,637,330	9,163,000	2.7	3	3
13	15	ゲムシタピン静脈内投与及び重粒子線治療の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、TNM分類がT4のものに限る。)	平28.10.1	22,364,652	20,280,000	6.8	6	2
14	16	ゲムシタピン静脈内投与、ナブ-パクリタキセル静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う膵臓がん	平28.10.1	49,601,218	2,042,260	14.7	15	5
15	17	治療抵抗性の子宮頸がんに対するシスプラチンによる閉鎖循環下骨盤内非均衡灌流療法 子宮頸がん(術後に再発したものであって、同時化学放射線療法に不応かつ手術が不能なものに限る。)	平28.11.1	-	-	-	0	-
16	19	術後のカベシタピン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法 小腸腺がん(ステージがⅠ期、Ⅱ期又はⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	平29.4.1	8,312,336	6,469,076	1.0	11	10
17	20	S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	平29.4.1	17,989,813	5,289,197	4.0	26	13

整理番号	告示番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	実施医療機関数(機関数)
18	21	S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びバクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	平29.4.1	-	-	-	0	-
19	22(1)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。) 【陽子線治療を実施する施設】	平29.6.1	27,162,661	24,000,000	4.9	15	6
20	22(2)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。) 【外科的治療を実施する施設】	平29.6.1	-	-	-	0	-
21	23	シクロホスファミド静脈内投与及び自家末梢血幹細胞移植術の併用療法 全身性強皮症(ステロイド又は少なくとも一種類のステロイド以外の免疫抑制剤に抵抗性を有するものに限る。)	平29.8.1	11,539,394	1,846,000	73.0	2	1
22	24	自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療 パージャー病(従来治療法に抵抗性を有するものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	平29.10.1	2,247,600	752,700	9.3	3	1
23	26	術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	平30.2.1	243,930,757	1,044,974	1.0	681	36
24	27	TRPV2阻害薬経口投与療法 心不全(十三歳以上の患者に係るものであって、筋ジストロフィーによるものに限る。)	平30.2.1	63,985,019	213,320	191.9	14	10
25	28	重粒子線治療 直腸がん(術後に再発したものであって、骨盤内に限局するものに限る。)	平30.6.1	-	-	-	0	-
26	29	腎悪性腫瘍手術により摘出された腎臓を用いた腎移植 末期腎不全(慢性維持透析が困難なものに限る。)	平31.2.1	1,506,140	1,506,140	-	10	1
27	30	反復経頭蓋磁気刺激療法 薬物療法に反応しない双極性障害の抑うつエピソード	平31.3.1	15,433,570	15,032,770	-	15	3
28	31	自己軟骨細胞シートによる軟骨再生治療 変形性膝関節症(軟骨欠損を伴うものであって、高位脛骨骨切り術の適応となるものに限る。)	平31.4.1	17,982,218	12,135,558	33.3	3	1
29	32	自家末梢血CD34陽性細胞移植による下肢血管再生療法 下肢閉塞性動脈硬化症(疼痛又は潰瘍を伴う重症虚血を呈するものであって、維持透析治療を行っているものに限る。)	令1.7.1	-	-	-	0	-
30	33	不可逆電気穿孔法 肝細胞がん(肝内における長径三センチメートル以下の腫瘍が三個以下又は長径五センチメートル以下の腫瘍が一個であって、肝切除術又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が九点以下のものに限る。)	令1.8.1	2,504,370	1,927,620	4.5	2	1
31	34	プローブ型共焦点レーザー顕微内視鏡による胃上皮性病変の診断 胃上皮性病変	令1.11.1	-	-	-	0	-
32	35	ボツリヌス毒素の膀胱内局所注入療法 神経因性排尿筋過活動による膀胱機能障害(五歳以上十八歳未満の患者に係るものに限る。)	令2.1.1	798,040	307,600	3.0	2	1
33	36	イマチニブ経口投与及びベムプロリズマブ静脈内投与の併用療法 進行期悪性黒色腫(KIT遺伝子変異を有するものであって、従来治療法に抵抗性を有するものに限る。)	令2.2.1	2,851,616	2,573,976	1.0	3	2
34	37	偽腔拡大に対する血管内治療 大動脈解離(術後に偽腔が拡大したものに限る。)	令2.2.1	3,683,260	661,280	11.5	2	1
35	38	糞便微生物叢移植 再発性Clostridioides difficile関連下痢症・腸炎	令2.3.1	-	-	-	0	-
36	39	周術期デュルバルマブ静脈内投与療法 肺尖部胸壁浸潤がん(化学放射線療法後のものであって、同側肺門リンパ節・縦隔リンパ節転移、同一肺葉内・同側の異なる肺葉内の肺内転移及び遠隔転移のないものに限る。)	令2.3.1	125,397,730	102,362,544	4.6	18	11
37	40	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(非小細胞肺癌、乳がん、胃がん、大腸がん、膵がん又は胆道がんに限る。)	令2.4.1	159,571,356	47,200,000	8.0	93	3
38	41	肺動脈自律神経叢除神経療法 肺高血圧症(薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	令2.6.1	8,840,550	164,650	16.0	6	1
39	42	腎血管筋脂肪腫に対する腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるものに限る。)	平2.10.1	9,964,579	4,614,394	4.9	18	6

整理 番号	告示 番号	技術名	適用年月日	総合計 (円)	先進医療総額 (円)	平均 入院期間 (日)	年間 実施件数 (件)	実施 医療機関数 (機関数)
40	43	内視鏡的エタノール局所注入療法 隣神経内分泌腫瘍(長径が一・五センチメートル以下のものに限る。)	令2.10.1	9,592,971	2,586,655	6.3	21	5
41	44	遺伝子組換え活性型血液凝固第Ⅷ因子製剤静脈内投与療法 脳出血(発症から二時間以内のものに限る。)	令2.11.1	-	-	-	0	-
42	45	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(治療が存在しないもの又は従来の治療が終了しているもの若しくは従来の治療が終了予定のものに限る。)	令2.12.1	104,721,702	88,172,022	0.2	149	19
43	46	抗腫瘍自己リンパ球移入療法 子宮頸がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、プラチナ製剤に抵抗性を有するものに限る。)	令3.1.1	10,604,337	7,624,707	19.5	2	1
44	47	メトホルミン経口投与及びテモゾロミド経口投与の併用療法 膠芽腫(初発のものであって、テモゾロミド経口投与及び放射線治療の併用療法後のものに限る。)	令3.2.1	2,966,033	112,873	-	10	2
45	48	シクロホスファミド静脈内投与療法 成人T細胞白血病(末梢血幹細胞の非血縁者間移植が行われたものに限る。)	令3.3.1	29,490,103	138,003	70.3	3	2
46	49	人工内耳植込術 一側性感音難聴(高度又は重度のものに限る。)	令3.4.1	12,200,312	3,645,548	8.1	34	1
47	50	腫瘍治療電場療法 膠芽腫(当該疾病が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、テント上に位置するものに限る。)	令3.4.1	468,605	76,215	-	2	1
48	51	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(食道がん、胃がん、大腸がん、膵がん、胆道がん、肺がん、乳がん、卵巣がん若しくは子宮がん又は悪性黒色腫であって、化学療法又は放射線治療を行っていないものに限る。)	令3.5.1	151,870,740	80,137,350	5.2	171	6
49	52	自家骨髄単核球移植による血管再生治療 全身性強皮症(難治性皮膚潰瘍を伴うものに限る。)	令3.7.1	-	-	-	0	-
50	53	シスプラチン静脈内投与及び強度変調陽子線治療の併用療法 頭頸部扁平上皮がん(喉頭がん、中咽頭がん又は下咽頭がんであって、ステージがⅡ期(p16陽性中咽頭がんに限る。)、Ⅲ期又はⅣ期のものに限る。)	令3.9.1	49,232,287	33,756,000	26.2	15	3
51	54	テネクトプレーゼ静脈内投与療法 脳梗塞(発症から四・五時間以内のものに限る。)	令3.9.1	9,012,198	849,876	22.7	3	1
52	55	遺伝子パネル検査による遺伝性網膜ジストロフィーの遺伝子診断 遺伝性網膜ジストロフィー	令3.10.1	39,469,530	38,275,900	-	100	2
53	56	アスピリン経口投与療法 家族性大腸腺腫症	令3.12.1	-	-	-	0	-
54	57	自己骨髄由来培養間葉系細胞移植による完全自家血管新生療法 閉塞性動脈硬化症(血行再建術が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	令4.4.1	-	-	-	0	-
55	58	ラメルテオン経口投与療法 悪性腫瘍(六十五歳以上の患者に係るものに限る。)	令4.4.1	1,193,534	49,324	14.3	44	1
56	59	ベバシズマブ局所注入療法 重症未熟児網膜症	令4.4.1	-	-	-	0	-
57	60	反復経頭蓋磁気刺激療法 うつ病(急性期において当該療法が実施された患者に係るものであって、薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	令4.5.1	-	-	-	0	-
58	61	セボフルラン吸入療法 急性呼吸窮迫症候群(従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	令4.5.1	-	-	-	0	-
合 計				1,296,031,777	566,493,641	/	1,545	188

【先進医療B】

令和4年6月30日時点における先進医療の

終了予定日、計画時患者数、登録症例数、協力医療機関数及び年間実施件数

整理番号	告示番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日(再掲)	終了予定日(※1)	計画時患者数(※1)	登録症例数	協力医療機関数	年間実施件数(令和3年7月～令和4年6月までの実績)(再掲)
1	2	経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 早期乳がん(長径が1～5センチメートル以下のものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	平25.8.1	令5.7.31	372	372	8	-
2	3	インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	国立がん研究センター東病院	平25.8.1	令8.3.18	38	38	17	7
3	4	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	慶應義塾大学病院	平26.1.1	令7.5.25	225	187	12	-
4	5	全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロビドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腸骨髄壊死発症抑制療法 全身性エリテマトーデス(初回の副腎皮質ホルモン治療を行っている者に係るものに限る。)	九州大学病院	平26.8.1	令6.3.31	150	0	10	5
5	7	術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスズマブ静脈内投与の併用療法 切除可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	静岡県立静岡がんセンター	平26.12.1	令9.3.25	130	46	46	-
6	8	LDLアフェレンス療法 閉塞性動脈硬化症(薬物療法に抵抗性を有するものであり、かつ、血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類ⅡB度以上のものに限る。)	横浜市立大学附属病院	平27.11.1	令5.3.31	35	32	0	2
7	9	骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法 腫瘍、顎骨骨髄炎、外傷等の疾患による広範囲の顎骨又は歯槽骨欠損(上顎にあっては連続した三分の一程度以上の歯槽骨欠損又は上顎洞若しくは鼻腔への交通が認められる歯槽骨欠損に限り、下顎にあっては連続した三分の一程度以上の歯槽骨欠損又は下顎区域切除以上の顎骨欠損に限り、歯槽骨欠損にあっては歯周疾患及び加齢による骨吸収を除く。)	名古屋大学医学部附属病院	平28.1.1	令5.4.22			骨再生予定部位83部位(対照群28部位及び間葉系細胞群55部位:最大29例) 4例(骨再生予定部位数:対照群11部位及び間葉系細胞群17部位)	-
8	10	テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	杏林大学医学部付属病院	平28.1.1	令7.11.10	146	146	35	18
9	11	ハイバードライト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	富山大学附属病院	平28.1.1	令8.12.31	40	25	9	4
10	12	自家嗅粘膜移植による脊髄再生治療 胸髄損傷(損傷後十二月以上経過してもなお下肢が完全な運動麻痺(米国脊髄損傷協会によるAISがAである患者に係るものに限る。))を呈するものに限る。)	大阪大学医学部附属病院	平28.4.1	令4.3.31	10	7	0	-
11	13	重粒子線治療 肝細胞がん(初発のものであって、肝切除術、肝移植術、エタノールの局所注入、マイクロ波凝固療法又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が七点未満のものに限る。)	群馬大学医学部附属病院	平28.6.1	令10.6.1	130	43	5	7
12	14	重粒子線治療 非小細胞肺癌がん(ステージがⅠ期であって、肺の末梢に位置するものであり、かつ肺切除術が困難なものに限る。)	九州国際重粒子線がん治療センター	平28.7.1	令9.6.30	150	53	5	3
13	15	ゲムシタピン静脈内投与及び重粒子線治療の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、TNM分類がT4のものに限る。)	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 QST病院	平28.10.1	令9.9.30	82	46	3	6
14	16	ゲムシタピン静脈内投与、ナブパクリタキセル静脈内投与及びバクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う膵臓がん	東京大学医学部附属病院	平28.10.1	【導入相試験】2020/3/9 【探索相試験】2024/9/9予定		【導入相試験】6～18例 【探索相試験】35例	【導入相試験】12例 【探索相試験】28例	15
15	17	治療抵抗性の子宮頸がんに対するシスプラチンによる閉鎖循環下骨盤内非均等灌漑療法 子宮頸がん(術後に再発したものであって、同時化学放射線療法に不応かつ手術が不能なものに限る。)	日本医科大学付属病院	平28.11.1	令2.4.18		最大27症例	0	-
16	19	術後のカベシタピン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法 小腸癌がん(ステージがⅠ期、Ⅱ期又はⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	平29.4.1	令13.11.9	150	81	19	11
17	20	S-1内服投与及びバクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	関西医科大学附属病院	平29.4.1	令9.5.31	180	79	29	26
18	21	S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びバクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	名古屋大学医学部附属病院	平29.4.1	令4.7.1	50	53	0	-
19	22(1)	陽子線治療 根治切除可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)(陽子線治療を実施する施設)	国立がん研究センター東病院	平29.6.1	令11.12.19	290	191	20	15
20	22(2)	陽子線治療 根治切除可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)(外科的治療を実施する施設)	国立がん研究センター東病院	平29.6.1	令11.12.19	290	191	20	-
21	23	シクロホスファミド静脈内投与及び自家末梢幹細胞移植術の併用療法 全身性強皮症(ステロイド又は少なくとも一種類のステロイド以外の免疫抑制剤に抵抗性を有するものに限る。)	九州大学病院	平29.8.1	令5.7.31	12	12	0	2
22	24	自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療 パーチャー病(従来の治療法に抵抗性を有するものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	京都府立医科大学附属病院	平29.10.1	令4.9.30	25	22	4	3
23	26	術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	平30.2.1	令11.9.30	880	811	35	681
24	27	TRPV2阻害経口投与療法 心不全(十三歳以上の患者に係るものであって、筋ジストロフィーによるものに限る。)	国立病院機構 大阪府根山医療センター	平30.2.1	令5.3.31	20	35	10	14

整理番号	告示番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日(再掲)	終了予定日(※1)	計画時患者数(※1)	登録症例数	協力医療機関数	年間実施件数(令和3年7月～令和4年6月までの実績)(再掲)
25	28	重粒子線治療 直腸がん(術後に再発したものであって、骨盤内に限局するものに限る。)	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 QST病院	平30.6.1	令6.5.31	32	32	5	-
26	29	腎悪性腫瘍手術により摘出された腎臓を用いた腎移植 末期腎不全(慢性維持透析が困難なものに限る。)	医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院	平31.2.1	令11.6.30	42	0	6	10
27	30	反復経頭蓋磁気刺激療法 薬物療法に反応しない双極性障害の抑うつエピソード	国立精神・神経医療研究センター病院	平31.3.1	令7.3.31	96	21	2	15
28	31	自己軟骨細胞シートによる軟骨再生治療 変形性膝関節症(軟骨欠損を伴うものであって、高位脛骨骨切り術の適応となるものに限る。)	東海大学医学部付属病院	平31.4.1	令10.12.31	20	11	0	3
29	32	自家末梢血CD34陽性細胞移植による下肢血管再生療法 下肢閉塞性動脈硬化症(疼痛又は潰瘍を伴う重症虚血を呈するものであって、維持透析治療を行っているものに限る。)	医療法人沖繩徳洲会 湘南鎌倉総合病院	令1.7.1	令9.6.30	16~20	1	0	-
30	33	不可逆電気穿孔法 肝細胞がん(肝内における長径三センチメートル以下の腫瘍が三個以下又は長径五センチメートル以下の腫瘍が一個であって、肝切除術又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が九点以下のものに限る。)	東京医科大学病院	令1.8.1	令9.7.23	45	10	0	2
31	34	ブロープ型共焦点レーザー顕微鏡による胃上皮性癌の診断 胃上皮性癌	国立がん研究センター中央病院	令1.11.1	令6.9.17	250	11	2	-
32	35	ボツリヌス毒素の膀胱内局所注入療法 神経因性排尿筋過活動による膀胱機能障害(五歳以上十八歳未満の患者に係るものに限る。)	東京都立小児総合医療センター	令2.1.1	令6.3.31	9~12	6	1	2
33	36	イマチニブ経口投与及びベムプロリズマブ静脈内投与の併用療法 進行期悪性黒色腫(KIT遺伝子変異を有するものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	慶應義塾大学病院	令2.2.1	令7.10.31	22	3	2	3
34	37	偽腔拡大に対する血管内治療 大動脈解離(術後に偽腔が拡大したものに限る。)	国立循環器病研究センター	令2.2.1	令6.3.31	15	8	0	2
35	38	糞便微生物叢移植 再発性Clostridioides difficile関連下痢症・腸炎	滋賀医科大学医学部附属病院	令2.3.1	令6.6.30	23	0	3	-
36	39	周術期デュルバルマブ静脈内投与療法 肺尖部胸壁浸潤がん(化学放射線療法後のものであって、同側肺門リンパ節・縦隔リンパ節転移、同一肺葉内・同側の異なる肺葉内の肺内転移及び遠隔転移のないものに限る。)	国立がん研究センター東病院	令2.3.1	令12.8.31	84	20	19	18
37	40	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(非小細胞肺がん、乳がん、胃がん、大腸がん、膵がん又は胆道がんに限る。)	国立がん研究センター中央病院	令2.4.1	令7.3.31	200	201	2	93
38	41	肺動脈自律神経叢除神経療法 肺高血圧症(薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	国立循環器病研究センター	令2.6.1	令7.12.31	20	13	0	6
39	42	腎血管脂肪腫に対する腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるものに限る。) 腎血管脂肪腫(結節性硬化症によるものに限る。)	九州大学病院	令2.10.1	令4.6.29	15	15	6	18
40	43	内視鏡的エタノール局所注入療法 隣神経内分泌腫瘍(長径が一・五センチメートル以下のものに限る。)	岡山大学病院	令2.10.1	令5.3.31	25	25	5	21
41	44	遺伝子組換え活性型血液凝固第七因子製剤静脈内投与療法 脳出血(発症から二時間以内のものに限る。)	国立循環器病研究センター	令2.11.1	令8.3.31	300	0	13	-
42	45	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る。)	岡山大学病院	令2.12.1	令5.12.31	250	212	25	149
43	46	抗腫瘍自己リンパ球移入療法 子宮頸がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、プラチナ製剤に抵抗性を有するものに限る。)	慶應義塾大学病院	令3.1.1	令6.3.31	14	3	0	2
44	47	メトホルミン経口投与及びテモゾロミド経口投与の併用療法 膠芽腫(初発のものであって、テモゾロミド経口投与及び放射線治療の併用療法後のものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	令3.2.1	令7.1.31	22	13	4	10
45	48	シクロホスファミド静脈内投与療法 成人T細胞白血病(末梢血幹細胞の非血縁者間移植が行われたものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	令3.3.1	令7.2.28	24	3	1	3
46	49	人工内耳補込術 一側性感音難聴(高度又は重度のものに限る。)	国際医療福祉大学三田病院	令3.4.1	令5.8.31	38	34	0	34
47	50	腫瘍治療電場療法 膠芽腫(当該疾病が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、テント上に位置するものに限る。)	東京都立小児総合医療センター	令3.4.1	令8.3.31	10	2	0	2
48	51	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(食道がん、胃がん、大腸がん、膵がん、胆道がん、肺がん、乳がん、膵臓がん若しくは子宮がん又は悪性黒色腫であって、化学療法又は放射線治療を行っていないものに限る。)	京都大学医学部附属病院	令3.5.1	令5.1.31	180	183	5	171
49	52	自家骨髄単核球移植による血管再生治療 全身性強皮症(難治性皮膚潰瘍を伴うものに限る。)	横浜市立大学附属病院	令3.7.1	令9.7.18	12	0	2	-
50	53	シスプラチン静脈内投与及び強度変調陽子線治療の併用療法 頭頸部扁平上皮がん(喉頭がん、中咽頭がん又は下咽頭がんであって、ステージがⅡ期(p16陽性中咽頭がんに限る。)、Ⅲ期又はⅣ期のものに限る。)	国立がん研究センター東病院	令3.9.1	令10.4.30	75	15	2	15
51	54	テネクテプラゼ静脈内投与療法 脳梗塞(発症から四・五時間以内のものに限る。)	国立循環器病研究センター	令3.9.1	令6.3.31	224	4	0	3
52	55	遺伝子パネル検査による遺伝性網膜ジストロフィーの遺伝子診断 遺伝性網膜ジストロフィー	神戸市立神戸アイセンター病院	令3.10.1	令4.12.31	100	100	1	100

整理番号	告示番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日 (再掲)	終了予定日 (※1)	計画時患者数 (※1)	登録症例数	協力医療機関数	年間実施件数 (令和3年7月～令和4年6月までの実績) (再掲)
53	56	アスピリン経口投与療法 家族性大腸腺腫症	京都府立医科大学附属病院	令3.12.1	令7.9.30	200	0	13	-
54	57	自己骨髄由来培養間葉系細胞移植による完全自家血管新生療法 閉塞性動脈硬化症(血行再建術が困難なものであって、フォンタン 分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	東京医科大学病院	令4.4.1	令9.3.21	50	0	0	-
55	58	ラメルテオン経口投与療法 悪性腫瘍(六十五歳以上の患者に係る ものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	令4.4.1	令8.5.31	766	44	0	44
56	59	ペバシズマブ局所注入療法 重症未熟児網膜症	神戸大学医学部附属病院	令4.4.1	令9.3.31	68	0	0	-
57	60	反復経頭蓋磁気刺激療法 うつ病(急性期において当該療法が実 施された患者に係るものであって、薬物療法に抵抗性を有するもの に限る。)	国立精神・神経医療研究センター 病院	令4.5.1	令8.4.30	300	0	0	-
58	61	セボフルラン吸入療法 急性呼吸窮迫症候群(従来の治療法に抵 抗性を有するものに限る。)	神戸大学医学部附属病院	令4.5.1	令8.3.31	25	0	0	-

※1 終了予定日・計画時患者数は、医療機関より提出された実績報告(令和4年6月30日時点)から抽出したものであり、実施計画の変更状況等の反映を踏まえ、今後変更する可能性がある。

【先進医療A】
1年間(令和3年7月1日～令和4年6月30日)の実施件数が
0件である先進医療技術に係る医療機関の今後の対応方針等

告示 番号	技術名	実施医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和2年7月～令和3年6月ま での実績 (実施可能であるすべての医療 機関の実績)
7	末梢血単核球移植による血管再生治療	三重大学医学部附属病院	患者の病変の状態が比較的安定していたため	今後も患者の病変の様子を注意深く観察していく。	0件

【先進医療B】
1年間(令和3年7月1日～令和4年6月30日)の実施件数が
0件である先進医療技術に係る医療機関の今後の対応方針等

告示番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和2年7月～令和3年6月までの実績 (実施可能であるすべての医療機関の実績)※
2	経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 早期乳がん(長径が一・五センチメートル以下のものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	平成29年11月に予定症例数到達により、症例登録を終了したため	-	0件
4	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	慶應義塾大学病院	本試験は2020年5月に症例登録期間が終了しているため。	-	0件
7	術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法 切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	静岡県立静岡がんセンター	2021年3月に患者登録終了した。本報告期間において、当院の「保険外併用療養費の対象患者」は治療終了などの理由によりいない。	本技術では保険外併用療養費の対象患者の治療をすべて終了し、現在追跡期間中である。また本試験は2021年3月に患者登録終了している。	2件
9	骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法 腫瘍、顎骨骨髄炎、外傷等の疾患による広範囲の顎骨又は歯槽骨欠損(上顎にあつては連続した三分の一程度以上の顎骨欠損又は上顎洞若しくは鼻腔への交通が認められる顎骨欠損に限り、下顎にあつては連続した三分の一程度以上の歯槽骨欠損又は下顎区域切除以上の顎骨欠損に限り、歯槽骨欠損にあつては歯周疾患及び加齢による骨吸収を除く。)	名古屋大学医学部附属病院	新規症例の登録を中止したため。	既に登録済みの4例の規定された評価・観察が終了したため、結果を纏めることとする。	0件
12	自家嗅粘膜移植による脊髄再生治療 胸髄損傷(損傷後十二月以上経過してもなお下肢が完全な運動麻痺(米国脊髄損傷協会によるAISがAである患者に係るものに限る。))を呈するものに限る。)	大阪大学医学部附属病院	本技術は2021年3月に新規患者登録は終了している。	取り下げの申出により、R4. 7. 1告示削除済	1件
17	治療抵抗性の子宮頸がんに対するシスプラチンによる閉鎖循環下骨盤内非均衡灌流療法 子宮頸がん(術後に再発したものであって、同時化学放射線療法に不応かつ手術が不能なものに限る。)	日本医科大学付属病院	2019/1/23に中止となっているため	-	0件
21	S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びバクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	名古屋大学医学部附属病院	試験治療終了のため	取り下げの申出により、R4. 8. 1告示削除済	5件

告示番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和2年7月～令和3年6月までの実績 (実施可能であるすべての医療機関の実績)※
28	重粒子線治療 直腸がん(術後に再発したものであって、骨盤内に限局するものに限る。)	量子科学技術研究開発機構 QST病院	2021年1月に目標症例数に達し、登録終了したため。	取り下げの申出により、R4. 8. 1告示削除済	3件
32	自家末梢血CD34陽性細胞移植による下肢血管再生療法 下肢閉塞性動脈硬化症(疼痛又は潰瘍を伴う重症虚血を呈するものであって、維持透析治療を行っているものに限る。)	湘南鎌倉総合病院	1年間の実施件数が0件だった理由は、コロナウイルス感染の周期的な拡大により、本研究の推進が難しかったことにある。具体的には、感染患者への治療対応のため医師看護師の感染病棟へのシフトをし、医療者の感染や濃厚接触によるマンパワー不足があり、入院病棟の一部閉鎖により予定入院に制限がかかる体制となったという背景があった。近隣透析クリニックからの重症下肢患者の紹介も感染拡大の影響で少なかった。隔週開催にて行われる院内の足病カンファレンス(重症下肢虚血患者に対する各診療科横断的な症例検討会)は継続し、対象となる症例を検討したが、骨髄炎の合併やRutherford 6群(中足骨骨頭を超える創傷)、悪性腫瘍合併などのため、細胞移植治療の対象となる透析患者がいなかった。	1. 周辺透析クリニックへの本先進医療Bの案内はすでに行っているが、これを定期的に毎年行う。 2. 単施設では症例登録が進まないため、多施設共同での実施に向けて事務局も交えて現在3施設と検討中。	1件
34	プローブ型共焦点レーザー顕微内視鏡による胃上皮性病変の診断 胃上皮性病変	国立がん研究センター中央病院	Cellvizio100システム(届出番号:27B1X00135000001)、Cellcizioミニプローベ(認証番号226ABBZ100063000)の国内国内製造販売業者である株式会社インクリース研究所が製造販売の業を廃止したため、今後の保守管理などの対応が終了となり、2020年7月9日に先進医療の登録を一時中断の対応とした。	厚生労働省研究開発政策課からの指摘である定期的なCellvizio100システムのメンテナンスを施行可能な環境を整備した。マウナケア社と株式会社グッドケア間で選任製造販売業契約が締結された。Cellvizio100システムは厚生労働省に届出が完了し、認証機関テュフラインランドジャパン株式会社によりセルビジョプローブが第三者認証を受けた。 登録再開について、CRBIに申請を行い、承認を得、先進医療技術審査部会にて承認を得た。試験再開の準備が完了したため、2022年度中には登録を再開する予定である。	0件
38	糞便微生物叢移植 再発性Clostridioides difficile関連下痢症・腸炎	滋賀医科大学医学部附属病院	新型コロナウイルスに対する感染予防対策がClostridioides difficile腸炎の発症を抑制している可能性がある。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響で病院全体の外来患者数や手術件数が減少していることや、患者側で受診を控える動きがあり、症例登録に至る患者の応募がなかったため。また、本研究開始直前にフィダキソマイシンとベズロトクスマブが使用可能となり、それらの薬剤により糞便微生物叢移植の適応症例が減少している可能性がある。	2020～2021年に協力医療機関3院(藤田医大・金沢大・順天堂大)を追加し、実施体制を拡大している。 また、新型コロナウイルス感染対策として、ドナーに対するPCR検査を実施していることを当病院HPに掲載すると同時に、関連病院への周知を行っている。	0件
44	遺伝子組換え活性化型血液凝固第Ⅶ因子製剤静脈内投与療法 脳出血(発症から二時間以内のものに限る。)	国立循環器病研究センター	COVID-19感染蔓延による影響で、米国中央事務局をはじめ各国での試験準備進捗が遅れ、2022年3月に我が国で試験登録開始に至った。	国内参加施設での患者登録を順次開始しており、2022年6月末時点で6施設が開設完了した。2022年度前半での全施設開設を目標とする。	0件

告示番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和2年7月～令和3年6月までの実績 (実施可能であるすべての医療機関の実績)※
52	自家骨髄単核球移植による血管再生治療 全身性強皮症(難治性皮膚潰瘍を伴うものに限る。)	公立大学法人 横浜市立大学附属病院	試験開始に向けて体制を整える時間が必要であったことと、該当する被験者がいなかったことによる。	関連診療科及び関連病院に紹介依頼をしている。現時点で同意取得例は1名である。	-
56	アスピリン経口投与療法 家族性大腸腺腫症	京都府立医科大学附属病院	試験の承認からまだ登録期間が短く、実施まで至っていない。原因として、多くの家族性大腸腺腫症の患者さんは半年に1回の外来受診であることと、5.0 mm以上の大腸ポリープが内視鏡的にすべて摘除され、5.0 mm以上のポリープの残存がないことを確認するのに時間を要することが挙げられる。	各施設の参加予定者における内視鏡予定日を確認しつつ、試験実施計画書と照らし合わせながら個別に調節する。	-
57	自己骨髄由来培養間葉系細胞移植による完全自家血管新生療法 閉塞性動脈硬化症(血行再建術が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	東京医科大学病院	2022/4/11に、厚生労働省関東信越厚生局より、先進医療施設届出書(先進医療B:新規技術)の受理がされた。同年6月から7月にかけて、CPCの年次バリデーション・サニテーションを行ったため。現在は患者様のエントリー中である。	今後は積極的に該当患者の集積を図る。	-
59	ベバシズマブ局所注入療法 重症未熟児網膜症	神戸大学医学部附属病院	試験要項に該当する重症未熟児網膜症の患児が発生しなかったため。	2022年度春ごろよりNICU入院患児が減少していたが、再び増加に転じているため、現行の診療を継続する。	-
60	反復経頭蓋磁気刺激療法 うつ病(急性期において当該療法が実施された患者に係るものであって、薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	国立精神・神経医療研究センター病院	2022年5月1日に適用となったが、資材の準備などが整わなかったため、6月30日時点での実施件数は0件であった。	先進医療実施の準備が整ったため、8月中に初回患者の組み入れを予定している。	-
61	セボフルラン吸入療法 急性呼吸窮迫症候群(従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	神戸大学医学部附属病院	書類の細かな変更があり最終的に確定するのが遅れたため	2022年8月中旬より開始予定である	-

※「-」は令和3年7月以降に告示された医療技術

暫定的に先進医療 A として実施している技術について

1. 背景及び現状

- 平成 20 年の先進医療告示第 2 項各号に掲げられた先進医療のうち、平成 24 年 11 月 30 日の第 2 回先進医療会議において先進医療 B へ振り分けることとされた技術については、暫定的に先進医療 A（以下、「暫定 A」という。）として実施しているところ。
- 暫定 A の取扱いについては、平成 29 年 1 月 12 日に開催した第 49 回先進医療会議において審議され、以下のように決定した。

- ・ 平成 29 年 3 月 31 日までに先進医療 B への移行できなかった技術については、平成 29 年 4 月 1 日をもって先進医療告示から取り消すこととしていたが、現在、同技術を継続して実施している患者が存在している期間は告示からの取り消しを猶予してはどうか。
- ・ 新規患者の組み入れについては認めないままとし、猶予期間後の先進医療 B への移行については各医療機関の判断に任せてはどうか。
- ・ 実施している患者がいなくなった場合には、医療機関より事務局に連絡することとし、当該医療機関についてはホームページ上から削除し、全ての医療機関が削除された時点でその技術を先進医療告示から取り消すこととしてはどうか。

2. 暫定 A として実施している技術の現状について

- 暫定 A として実施している技術については、新規患者の組み入れがないこと及び継続中の患者の有無について、事務局が定期的に確認をしており、令和 3 年 11 月時点の状況は以下のとおりである。
- 継続患者数が 0 になった技術に関しては、削除の手続きを適時行う。

告示番号	先進医療技術名	令和 2 年 11 月時点	令和 3 年 11 月時点	令和 4 年 11 月時点
8	末梢血単核球移植による血管再生治療	1	1	1
9	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	12	9	0